

Detecting Intrusions on Windows Operating Systems by Monitoring System Services

学部4年生
島本 大輔
2005年2月8日

1

現在のセキュリティ事情

- インターネットの成長による Attack による危険性の増大
 - ウィルス、不正侵入、スパイウェア、など

Intrusion Detection System (IDS)の重要性

2

Intrusion Detection System(IDS)

- 侵入検知システム
 - Signature based = パターンマッチ
 - アンチウィルスソフト、など
 - Anomaly based = 異常な動作を検知

3

既存の IDS

- 既存のWindows 用 IDS
 - Signature based が主流 = 新種への対応が困難
- Linux、UNIX における IDS の研究
 - 新種への対応を含めた先進的な研究が多数

4

Linux、UNIX における IDS

- プロセスの様々な情報を監視
 - Forrest らの System Callの監視
 - Feng らのスタックの監視
 - Sekar らのプログラムカウンタ(PC)の監視
- これらのWindows への応用が少ない
 - **ブラックボックス**なOS
 - 公式に提供されているモジュールでは不十分

5

モチベーション

- 「Linux、UNIX における先進的なIDSの研究をWindowsへ応用したい」
Windows における System Call などの情報を使って異常を検出

6

研究内容

- IDS への第一歩
 - Windows 版 System Call である System Service を Intercept
 - System Service のパターンを調査

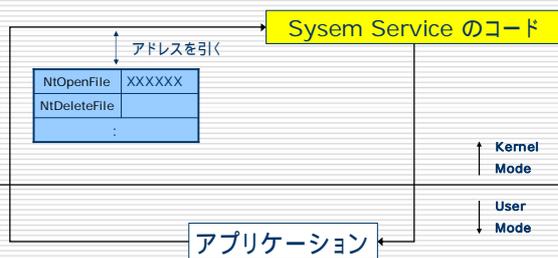
7

System Service

- Windows の根本的な機能を提供
 - ファイル操作、レジストリ操作、プロセス操作、など
例: NtWriteFile... ファイルへの書き込みはすべてこれを利用
- UNIX 系 OS の System Call に対応

8

System Service の動作



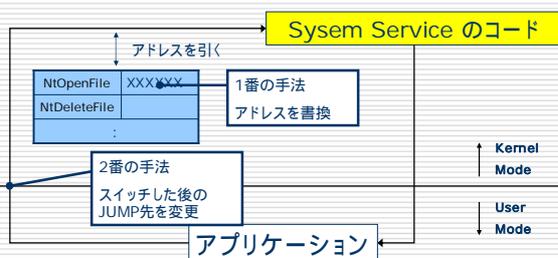
9

System Service の Interception

- 2通り存在
 1. System Serviceのアドレステーブル (System Service Descriptor Table) を書換
 - System Call Table の書き換えと同等
 2. Kernel mode へスイッチする瞬間に Intercept
 - Windows 2000 以前では int 2e
 - Windows XP 以降は SYSENTER 命令

10

System Service の Interception



11

System Service の Interception

- 2番の SYSENTER 命令を利用した Interception を採用
 - 既存研究が少数
 - 監視する System Service の追加・削除が容易
 - 一箇所において監視可能

SYSENTER 命令

- Fast System Call... System Call への遷移を 1命令で完了

12

